

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103212		
法人名	有限会社キョーシン福祉会		
事業所名	みずき苑		
所在地	熊本市北区龍田5丁目12番4号		
自己評価作成日	令和2年2月28日	評価結果市町村受理日	令和2年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

子供の声や、鳥の鳴き声が聞こえる立地条件にあり、古民家を改装し、家庭的な間取りに設計されています。また、四季を感じてもらうため、天気の良い暖かい日は外気浴、手作りの折り紙などで室内を飾っています。さらに食事とおやつは手作りを基本として味だけでなく色彩にも気遣って、目からも美味しい食事を心がけています。また、健康や体力維持のため、体操や歩行などの時間を作り、利用者の残存機能の保てるケアを行っています。

離職者が多いと言われている業界ですが、ほとんどの職員が4～5年(長い職員で10年以上)努めており、認知症ケアを顔なじみのスタッフで人的環境からも支えています。実際に徘徊などのBPSDはほとんど見られておらず、家庭的な環境で利用者は落ち着いて過ごされています。また、職員のスキルアップの為、施設内勉強会だけでなく、外部研修への参加(認知症実践者研修など)を推進しており、現在は喀痰吸引等業務のできるスタッフが5名おり、介護と医療の連携を図りながら利用者の健康や生活を支えられる体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古民家改修型の懐かしい外観は、入居者と職員が過ごす地域の1軒屋として運営している。高台のリビングから日々の景色を望み、庭先での草取りや季節の花を愛でながら、どこか家庭にもある普段の生活が営まれている。ホームでの長年の暮らしが双方の関係をより強固なものとし、雨の中帰路につく職員の身を案じたり、ベッド中心の生活になっても日中の状態を見てリビングで他者の声を聞きながら過ごしてもらうなど、互いを思いやる暮らしぶりである。昨年より優先とした取組に医療機関との連携と、ベグ増設後の受け入れ先として看護師を中心に痰吸引の実施体制の確立がある。次年度は建物内の改装も予定されており、更に充実した支援に繋がることが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方の人権を尊重したケアを基本とし、理念に沿った目標の具体化に努めている。勉強会等で職員教育を行っている。	開設当時より変わらぬ理念である。“いっしょに歩ければいい・・・”の中には、一緒にいることを喜びとし、入居者・家族とともに歩むという意味が込められている。前年の外部評価後はホーム全体で項目ごとに必要な改善点を見出し、順次取り組んでおり、その事が年間研修計画の作成などに表れている。	理念をより具現化し、日々の支援に反映させるために年あるいは月目標を設定して、職員が身近で取り組みやすい内容を掲げることも良いと思われる。検討を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のボランティア訪問等で交流を継続している。	入居者は散歩中に近隣の人々と会話したり、地域の協力医療機関からひなまつりに招待を受けるなど、担当医や職員との関係性を深めている。地域からの折り紙(毎月)やフラダンスのボランティアは継続されており、入居者の楽しみ事となっている。職員は地域の清掃活動等への参加を検討しており、実現が待たれる。	立地上地域から人々が気軽に訪れる環境ではないが、運営推進会議等で情報を収集し、清掃活動への協力や、入居者が地域へ出る機会を支援願いたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が折り紙のボランティアで毎月1回来苑してもらい、入居者様と触れ合うことで理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、自治会長、民生委員、地域包括職員が出席し、活動内容や苑の現状を報告し、活性化を図っている。	推進会議にはささえりあの職員や自治会長、民生委員などが参加している。2ヶ月毎の活動内容や、入居者の状態を報告し、この1年は特に医療支援について協力医との情報交換や薬剤師による薬剤管理指導の導入について参加者へ報告している。家族へは参加を依頼しているが、この1年会議への出席は得られてはいない。	入居者の日々の健康管理の充実を図り、協力医との連携について会議の中で紹介しており、事故やヒヤリハットについても同様に報告を行ない、ホームの透明性を図ることが望まれる。家族へは引き続き参加を依頼し、多方向からの意見の引き出しに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方に電話等にて相談助言をもらい、情報の共有に取り組んでいる。	運営推進会議に参加するささえりあ職員と互いの情報を交換し、意見や提案を運営に反映させている。また、疑問や相談事があれば直接行政担当者に電話で尋ね、指導を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束の内容とその弊害について認識し、身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束の研修会を実施する他、職員は普段からニュース報道などの事例をもとに、話し合う機会を持っている。その中で常に意識してケアにあたる事や、自己コントロールについて、入居者への尊厳の気持ちが根底に必要なとの共通認識を持っている。	今後自己評価の機会として、虐待の芽チェックリストなどの活用や、身体拘束の「指針」を掲示することで、職員の意識付けとしたり来訪者へ向けた啓発として頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で高齢者虐待の内容と、事例検討で虐待の徹底防止に努めるよう、意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関・事業所内にパンフレットを置き、家族の方々や職員等がいつでも見られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明等で詳しく説明し、又、改訂時には同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱等を設置し、意見を反映し、来苑時には要望等がないか確認を行っている。	入居者の要望は普通の会話から聞き取り、「歌をうたいたい」「買い物に行きたい」などの声を支援の中に反映させるようにしている。和気あいあいとしたリビング内であり、職員はテレビ番組の取り合いにも普通の家庭の日常として捉えている。家族の面会時や家族感謝の会には、入居者の近況を伝えながら、意見や要望の引き出しに努めている。	家族感謝の会には手作り料理を皆で囲み、入居者とのひと時を過ごしてもらおう工夫している。職員はこの機会を利用して、運営推進会議の内容報告や会議への参加を依頼することも必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、ミーティング等で現場の意見を聞き、代表者と協議をし現場の業務に生かせるよう努めている。職員には申し送りノートにて周知している。	職員はミーティングを通じ自由に意見を出し合い、業務改善やケア向上に反映させている。申し送りノートを活用して共有を図り、伝達ミスや漏れがないようにしている。本年度力を入れている痰吸引などの支援に5名の職員が資格を取得しており、ペグ利用者の今後の受け入れに門戸を開き、力強い存在となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアマネ、管理者との連携で、個々の状況を把握し、内部での勉強会の推進、外部への参加を推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネ、管理者との連携で、個々の状況を把握し、内部での勉強会の推進、外部への参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内での勉強会、外部研修会へ参加、協議会に参加し、意見交換や情報収集に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	観察を細かにしながら、支援が必要かアセスメントを行い、常に笑顔で接し、温かな雰囲気の中でホッとできる環境の提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、アセスメントを作成して同意を得ている。また随時、家族と密に電話で連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の情報(サマリーなど)や面談によりアセスメントを行い、必要な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事ややりたい事に注目し、生活を共にする気持ちを大切にしている。入居者のこれまでの生活を理解し、お互いに支え合い共感ができるような関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事の際には、ご家族の参加をお願いし、本人と家族の触れ合う時間を作り、面会時も心地よく過ごして頂けるように雰囲気や情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣、親族の方々の来苑を歓迎し、ゆっくりと触れ合う環境作りに努めている。	入居者と職員が互いを案じ、共に暮らす家のようなホームは、職員の雨の日の帰路を心配し、「傘はあるね～」と、声を掛けられるなど長年の関係性が定着している。家族や親戚の面会時には賑やかなりピングで他の入居者と一緒に過ごされたり、居室でゆっくり寛がれている。入居者の中には仏壇に仏飯や線香をあげることを日課とし、月命日をカレンダーに印して、住職の来苑を待たれたり、若かりし頃過ごしたドイツ語が飛び出すなど、馴染みの暮らしを支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格、個性を把握し、スムーズにコミュニケーションがとれるように気配り、環境づくりに配慮し、利用者の居場所を大切に考え支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約書終了後、家族がいつでも相談できるように、関係の継続に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や家族来苑時に本人、家族より要望を伺い、その希望要望に添えるよう支援を行っている。	職員は普段からホームでの暮らし方について入居者の意向を聞き取り、プランにつないでいる。意思表示が困難になられた方には、これまでの長い付き合いから思いを汲み取り、家族の面会時に本人の代弁者として意見を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、基本情報聴取やアセスメントに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活状況について経過記録や担当スタッフとのモニタリングにより現状の把握、確認に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当職員のモニタリングによりケアのあり方について相談したり家族来苑時には、以降確認を行いプランに反映させている。	入居者・家族の意向を優先してケアマネジャーがプランを立案している。ペグの術後再びホームに戻られた入居者のプランには、新たなアセスメントから現状を共有し、1日1回は他者の居るリビングで過ごしてもらい、定時の体位交換や資格取得により看護師以外の職員の痰吸引が可能となったことで、入居者に安心して過ごしてもらう内容を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日誌に記録し、毎朝カンファレンスを行い、連絡ノートを活用し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理容の利用、ボランティアの活用等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、ボランティアの訪問を実施しており、先生方々の協力の元、楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、事業所のかかりつけ医の説明を行い希望に沿うよう支援している。	入居時に希望するかかりつけ医の確認をおこなっている。現在、殆どの方が協力医による訪問診療や受診に出向いているが、中にはタクシーを利用し、以前からの医療機関へ出かけられる方もおられる。専門医の受診については基本的に家族の対応としている。歯科は必要時に訪問による治療が行われている。健康管理は看護職員を中心に努めており、特に夜勤者との連携を密にし、異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきがあればケアマネ、管理者に連絡、又は報告を実施。連絡ノートで職員には周知し、健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供をおこない、退院の際は、事前に訪問し、情報聴取を行い、かかりつけ医への情報提供や職員への周知を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、主治医と家族との面談を設定し、治療方針、終末期ケアについて説明し、同意を得てプランにも取り上げケアの統一を図る。	入居時に重度化・終末期に関する指針をもとに、ホームの取組を説明している。面会時やプラン作成時の話し合いでも、家族はホームでの暮らしを希望されており、現在指針をもとにあらためて意向を書面で確認中である。主治医との連携や、ホーム内外の研修をはじめ、現在、痰吸引等の業務を行える職員が5名在籍するなど、ホームでの最終に限らず、信頼を寄せてくださる本人・家族の思いに応えるために努力を重ねている。	管理者は健康な状態でも、重度化された場合でも、普通の家として家族に訪れて欲しいことを伝え、職員も家庭的な雰囲気大切にしている。変わらぬ支援の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、主治医へ連絡し指示を受ける。緊急時対応の本を常備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施、防災時の避難経路の確認を職員の共有として周知している。	今年度は日勤帯と夜勤帯を想定し、搬送方法や毛布を使用するなど内容を工夫して実施している。食備蓄として米と、数日分の食料を確保している。今後は賞味期限の記入を含めたりリストの作成が期待される。	今後の訓練の実施においては、運営推進会メンバーや家族にも参加を呼びかけ、意見を受ける事も有効と思われる。また、入居生活が長い方の居室は物品も増えていることから、定期的な整頓やホーム内を含めてコンセントの埃などの確認も必要と思われる。備蓄については、賞味期限の記入を含めたりリストを作成し、今後も職員間での共有を期待したい。また、灯油缶については安全面を考慮した管理が必要と思われる。取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の情報の保護、利用目的等を家族に説明し同意を得ている。 言葉遣い、身だしなみ等意識の統一を図っている。	入居者への言葉使いや対応、守秘義務については、会議などの中で周知を図っている。呼称は苗字にさん付けと限定せず、下の名前の方が、安心される方や反応が良いなど個々に応じて対応している。身だしなみやおしゃれの支援も家族の協力を得ながら取り組んでおり、化粧品の購入や美容室へ出かける方もおられる。また、職員がマニキュアを施したところ、「初めてした〜！」と、嬉しい表情で喜ばれた方もおられるようである。	写真の掲載など個人情報の使用については本人・家族の承諾を得ている。ホームではボランティア訪問による交流も行われており、今後は良好な関係性を継続するためにも、守秘義務などについても説明を行う事が必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断がしやすい声掛けを心がけており、ゆっくりとした会話の中に意思疎通が図れ、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや入浴等の希望を聞き、状態に合わせて決めて頂いている。 ゆったりとした時間が流れるよう、利用者優先の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等は季節や好みに応じ、入浴後は個人の化粧水を使用し、整髪も2ヶ月に1回訪問して頂き、好みの髪型の要望にも答えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で手伝って頂いたり、リクエストを頂いて対応している。 検食簿への記入は、入居者の声も記入している。	旬の食材や家庭的な料理を取り入れた献立を作成し、調理は専任者を中心に行っている。食材は代表者自ら鮮度や季節の物を吟味して購入しており、美味しい食事の提供が継続されている。入居者が直接台所に立つ機会は少ないが、野菜を手にとってもらい、「重さはどの位でしょうかね〜！」と問うたり、調理方法などを尋ねる等、食への関わりを持てるようにしている。食事時間は介護の状況に応じて開始しており、ミキサーやキザミ食などにも対応している。	彩りも工夫された料理は入居者の楽しみとなっている。今後はイベント食に加え、普段の食事についても写真などで伝える事で、より家族の安心や面会時の会話にも繋がるものと思われる。取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分チェックノートを利用し、状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のレベルや状態に合わせ、口腔ケアの声かけ、支援を行っている。訪問歯科を利用したり、馴染みの歯科へ家族の方が同行され、個々に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っている。	把握した排泄パターンを共有し、定時に声かけや誘導を行っている。現在、リハビリパンツを使用されている方が殆どであるが、布パンツやテープ式オムツの方や、必要に応じてポータブルトイレを配置している。ポータブルトイレは居室で使用されるため、臭気には十分配慮し清潔に管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便できるように、乳製品や食物繊維を多く取り入れたり、声かけをし、体を動かされるように努める。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は入浴して頂き、その日の体調に合わせて清拭を実施。入浴日でないときは、陰洗を行っている。	一般家庭にあるような浴室のため、段差もあることから踏み台などを工夫し環境を整備している。また、個々に応じて2名介助により安全な入浴支援に取り組んでいる。週2回の入浴を支援する他、実施できない時は更衣や清拭などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操やレクリエーションなどで活動性を考慮させて頂く。 室内温度管理を行い、冬場は湯たんぽを活用し、気持ち良く睡眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋ファイルを作成し、いつでも職員が確認できるように行い、毎食事で薬確認チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を知り、若い時の仕事、趣味などを職員が把握し、アプローチを行い、生き生きと生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴、散歩を行うことで、季節感を感じて頂いている。	立地の面から気軽に戸外に出る事は困難であるが、天候の良い日は身体状況に応じて外気浴や散歩の機会を支援している。また、近隣にある公園はベンチやトイレの設置もないことから、特に寒い時期の利用は難しく、気候の良い時期に出かけている。地域の小売店への買い物には個別で支援している。受診や美容室利用、外食など家族と一緒に楽しめる方もおられる。	受診やその後の買い物など、タクシーを利用し外出される方もおられ、ドライバーにわかりやすいよう職員の工夫により「行先カード」を作成している。本人にとっても自信にも繋がっていると思われ、今後も安全な外出への配慮を継続いただきたい。また、入居者にあらたまった外出だけではなく、玄関先で季節の草花を見たり、地域を一望しながらの外気浴を継続いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力、認知症の症状を見ながら、本人の希望と家族の意見を聞き、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば職員が電話をかけ対応し、レクレーションの一環で年賀状等を作成し、家族へ郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、湿・温度計、加湿器を設置し対応。 ホールでは自由に過ごすことが出来、天気の良い日は昇ってくる朝日を見ることができる。	高台にあるホームは地域を一望でき、リビングから陽がある。昇る光景を見れる環境はホームの特徴である。ホーム内には職員の持ち寄った草花や、入居者と一緒に取り組んだ作品を掲示し季節感のある空間を作っている。リビング食堂は台所からの音や匂いが伝わり、食事の時間をより楽しみなものにしている。席の配置は身体状況や介護の度合い、相性などに応じて決定しており、居心地の良い時間を過ごせるようにしている。	今後、老朽化したホーム内の大規模改修が予定されているが、これまで入居者に提供してきた、居心地の良い住まいが変わることなく完成されることを願いたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者のADLに合わせ、テーブル配置を考慮し、環境面を把握し、落ち着く居場所づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族様と相談し決めている。居室は個々の希望に応じ、馴染みのものを持ってきて頂き、安らげる空間になるよう努めている。	居室はこれまでの生活環境に近づけるよう、入居時に本人・家族と相談しながら決定している。民家を改修したホームであり、部屋の広さや造り、採光などは9部屋様々であるが、入居年数が長い方が殆どであり、使い慣れた部屋で安心して過ごされていることが窺えた。中には仏壇を持ち込まれ、掲示したカレンダーにご主人の月命日に印をつけ、ご住職の来訪を居室で待たれる方もおられる。	居室で過ごす時間が多くなられた方もおられるが、安心して過ごしてもらえるよう、小まめな声かけや確認が行われている。家族の面会時も居室でゆっくり過ごされており、今後も本人・家族にとっても居心地の良い居室環境の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」 を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	表札、カレンダー、家族の写真を活用し、 場所が分かるように表示し、歩行者、車 椅子の方への安全に考慮している。		